

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
名古屋動物専門学校		平成21年2月5日	塚原 一 功		〒453-0015 愛知県名古屋市中村区椿町14番8号 (電話) 052-452-1411																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人立志舎		平成10年10月30日	塚原 一 功		〒130-8565 東京都墨田区錦糸1-2-1 (電話) 03-3624-5403																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
文化・教養	動物管理専門課程	動物管理学科			平成22年文部科学省告示 152号	-																					
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識及び人間と動物が共生できる確かな技術を受け、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1720単位時間	390単位時間	900単位時間	1125単位時間	-	-																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
220人		269人	0人	6人	10人	16人																					
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は秀・優・良・可・不可の5つに分け不可は不合格とする。成績評価は期末試験、授業期間中に実施するテスト、出席などを総合して判断する。																						
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏 季: 7月16日～8月31日 ■冬 季: 12月16日～1月 6日 ■学年末: 3月16日～4月 1日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が規定の授業時間数に達すること。なお、教育課程に定められた必修科目についてはすべて取得することを要します。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導等の対応 電話での対応、保護者との綿密な連絡等			課外活動	■課外活動の種類 ペット研修、アジリティ大会、球技大会、総合体育祭、学内就職セミナー、北海道ツアー等 ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) イオンペット、AHB、アイズドッグ、犬の家・猫の里、ペッツワン、SweetiePie、もりやま犬と猫の病院、犬山動物総合医療センター、平成動物病院、千村どうぶつ病院、あいち犬猫医療センター、株式会社コジマ、ダイゴペットクリニック、有限会社関空ペット、ドッグランド岐阜、公務員(名古屋税関、名古屋検疫所、航空自衛隊)など ■就職指導内容 ・業界研究 ・業種研究 ・自己分析 ・面接指導 ・新入生就職セミナー・進路決定のための就職、公務員ガイダンス ・就職模試 ・学内就職セミナー・企業内インターンシップ ■卒業生数 : 224 人 ■就職希望者数 : 204 人 ■就職者数 : 199 人 ■就職率 : 97.55 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 88.84 % ■その他 ・進学者数 : 4 人 ・家事承継 : 0 人 ・アルバイト : 1 人 ・留学生帰国 : 0 人 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>215人</td> <td>191人</td> </tr> <tr> <td>家庭動物管理士3級</td> <td>③</td> <td>224人</td> <td>224人</td> </tr> <tr> <td>ドッグサイエンスアドバイザー</td> <td>③</td> <td>39人</td> <td>39人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物看護師</td> <td>③</td> <td>96人</td> <td>77人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士2級	③	215人	191人	家庭動物管理士3級	③	224人	224人	ドッグサイエンスアドバイザー	③	39人	39人	愛玩動物看護師	③	96人	77人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
愛玩動物飼養管理士2級	③	215人	191人																								
家庭動物管理士3級	③	224人	224人																								
ドッグサイエンスアドバイザー	③	39人	39人																								
愛玩動物看護師	③	96人	77人																								
中途退学の現状	■中途退学者 13名 令和4年4月 1日時点において、在学者357名(令和4年4月 1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者344名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学習不振、進路変更、病気、友人関係他 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生相談室の設置、学生との面談、保護者との電話連絡、保護者宛の郵送による出席状況報告など			■中退率 3.64 %																							
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 <学校独自の奨学金> ・特別奨学生試験制度 <学校独自の特待生制度> ・資格や経歴による特待生制度 ・スポーツ特待生制度 <授業料等減免制度> ・大規模災害(東日本大震災等)による学費減免制度 <その他の学費支援制度> ・学費延納制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										

第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無
当該学科の ホームページ	URL: <a href="https://www.nagoya-doubutsu.ac.jp">https://www.nagoya-doubutsu.ac.jp</a>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界団体等との連携により、必要となる最新の知識・技術・技能を反映するため、企業・業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムの改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け  
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- 1、教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野について各校ごとに組織する。教育課程編成委員会は業界関連者、有識者および学園職員で構成する。
- 2、カリキュラム作成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに組織する。カリキュラム作成委員会は関連する学校・関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
- 3、カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
- 4、カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会学園全体会および各学校・各学科ごとの分科会において検討を行う。
- 5、教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
- 6、カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
- 7、カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の意見を十分に生かし、カリキュラム改善等の教育課程の作成を定期的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年1月30日現在

名前	所属	任期	種別
山口 常夫 氏	一般社団法人 全日本犬訓練士連合協会 中日本訓練士会 代表	令和4年4月1日～令和5年3月31日	①
宮本 久瑠実 氏	あいち犬猫医療センター 動物看護師	令和4年4月1日～令和5年3月31日	③
杉山 昌二	名古屋動物専門学校 動物管理学科 教務部課長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
吉野 輝昭	名古屋動物専門学校 動物管理学科 教務部課長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
赤木 啓嗣	名古屋動物専門学校 動物管理学科 教務部課長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、12月または1月)

(開催日時(実績))

第18回 令和 3年01月 24日(月) 名古屋委員会 10:30～12:30

第19回 令和 4年09月 27日(火) 名古屋委員会 10:30～12:30

第20回 令和 5年01月 30日(月) 名古屋委員会 10:30～12:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

「トリマーや動物看護師は犬の正しい保定の技術習得は必須である」との提言から、グルーミング実習・動物看護実習の年間を通じて、講師が実演し学生同士チェックし合う本学の特徴であるゼミ学習にて技術の習得を図っている。また、「動物病院では猫の診療が増えているので、猫の保定ができることが大事である」との提言をもとに、学内で保護猫の飼養を開始した。このおかげで、猫の生態や飼養方法を知ることができ、「保定」の実習もしている。学生が訓練競技会などに関わってみてはとの提言から、大会運営スタッフとして参加した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

職業教育を通じ自立した職業人を育成し社会や職業へ円滑に移行させること。

1. 実務者の指導により、動物業界人としての意識を持たせる。
2. 業界の動向、最新の技術、知識を修得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

動物業界の中にあつて、特定の分野に偏ることなく、最新の業界全体の動向を把握しうる業界団体または企業を選定し、教務部が連携して、授業内容や方法及び評価について十分に協議し、職場に必要となる実践的かつ専門的能力を育成するため実習・演習を行う。また、レポートおよび演習結果により企業等と連携し学習成果の評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップ	動物業界における職業観の確立と、学校で学んだ知識や技術、ビジネスマナーを実際の現場で実践する。	イオンペット、株式会社AFB、大口動物総合医療センター、平成動物病院、ペットハウスプーキー、犬の家、ワンラブ等
グルーミング論Ⅰ	グルーミング実習を行うにあたり使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義・実演を行う。	有限会社ペッツピー・ディー 株式会社東光舎 大東電機工業株式会社
犬の行動心理学Ⅰ	ドッグトレーニングの基本であるしつけと訓練の違いや、人間と犬との関係性(コミュニケーション)の築き方を学ぶ。	一般社団法人 ジャパンアニマルホスピス
基礎獣医学Ⅳ	個々の動物の生命と健康に害を及ぼす各種要因について、動物衛生全般とオーラルケアについて学ぶ。	ライオン商事株式会社
ホリスティックケア	人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。	Ciel Chien

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

動物を取り巻く業界内の環境は日々進化しており、動物に関する専門知識・技術を教育する本学の教員も社会で活用されている実践的な技術と知識を修得する必要がある。そして修得した技術と知識を、常に今後の動物産業界を担う者たちへの育成教育に活かすことを目的として、また教員研修規程に従い職能団体と連携して定期的に研修を行う。なお、授業及び学生に対する指導力等の修得向上のための研修等も定期的に行っていく。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修内容: グルーミング道具の使い方及び手入れについて

対象: 動物管理学科教員

実施日時: 令和5年4月14日(金) 10時00分～15時00分

主催: 有限会社ペッツピー・ディー、株式会社東光舎、大東電機工業株式会社

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修内容①: 人権講習

対象: 教職員全員

実施日時: 令和4年12月21日(水)

主催: 愛知県県民生活部県民総務課人権推進室

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名①「WJV大会」(公益社団法人日本動物病院協会(JAHA)、一般社団法人日本臨床獣医学フォーラム(JBVP))

期間: 令和5年7月8日(土)～7月9日(日) 対象: 名古屋動物専門学校 教員

内容: 最新の知見を踏まえた獣医療について、獣医師及び動物看護師、教師の為の知識・技術向上のための勉強会

研修名②「動物取扱責任者研修」(連携企業等: 名古屋市動物愛護センター)

期間: 令和5年9月 予定 対象: 名古屋動物専門学校 教員

内容: 動物愛護法に基づく飼育動物の適正飼養について

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「人権研修セミナー」(連携企業等: 愛知県県民生活部県民総務課人権推進室)

期間: 令和5年12月 予定 対象: 教職員全員

内容: 人権啓発

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるか検証するため学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は原則として年1回開催し、公表している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	イ. 理念、目的、育成人材像は規定されているか。 ロ. 学校における職業教育の特色は何か。 ハ. 理念、目的、育成人材像、特色などが学生、保護者に周知されているか。 ニ. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。
(2) 学校運営	イ. 目的等に沿った運営方針が策定されているか。 ロ. 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。 ハ. 人事、給与に関する制度は整備されているか。 ニ. 教務、財務等の組織整備など意思決定組織は整備されているか。 ホ. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか。 ヘ. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。
(3) 教育活動	イ. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 ロ. 教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた教育機関として修業・年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。 ハ. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。 ニ. キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ホ. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ヘ. 授業評価の実施・評価体制はあるか。 ト. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。 チ. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 リ. 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。 ヌ. 職員の能力開発のための研修等が行われているか。
(4) 学修成果	イ. 就職率の向上が図られているか。 ロ. 資格取得率の向上が図られているか。 ハ. 退学率の低減が図られているか。
(5) 学生支援	イ. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。 ロ. 学生相談に関する体制は整備されているか。 ハ. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか。 ニ. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 ホ. 課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ヘ. 学生の生活環境への支援は行われているか。 ト. 保護者と適切に連携しているか。 チ. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。
(6) 教育環境	イ. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 ロ. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ハ. 防災に対する体制は整備されているか。
(7) 学生の受入れ募集	イ. 学生募集活動は、適正に行われているか。 ロ. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ハ. 学納金は妥当なものとなっているか。

(8)財務	イ. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか。 ロ. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか。 ハ. 財務について会計監査が適正に行われているか。 ニ. 財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	イ. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ロ. 個人情報に関し、その保護のために対策がとられているか。 ハ. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか。 ニ. 自己評価結果を公開しているか。
(10)社会貢献・地域貢献	イ. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 ロ. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。 ハ. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか。
(11)国際交流	評価していない。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・「獣医師が診療する際や入院中に伸びた顔や身体の毛を動物看護師がカットすることがある。在学中に学んだグルーミング実習が役立っている。」とのご意見を頂いた。本学ではすべてのコースにおいてグルーミング実習を行っている。今後も継続していく。

・「修学支援制度が充実している。私は特待生制度を利用して入学したが、親もとても喜んでいた。」とのご意見も頂いた。本学の修学支援制度は、今年度も継続していく。

・「名古屋動物専門学校卒業生は、分からないことがあるとすぐに質問をしてくれるように感じる。何に悩んでいるのか、何に困っているのか、教える側も理解でき、説明することが出来る。これは在学中のゼミ学習の効果なのかもしれない。以前の私も話をすることが苦手だったが、ゼミ学習を通して話が出来ようになった。」とのご意見を頂いた。本学の特徴でもあるゼミ学習は問題解決だけでなく、コミュニケーション能力向上にも効果があるので、今後も継続して行っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月12日現在

名前	所属	任期	種別
山口 常夫 氏	一般社団法人 全日本犬訓練士連合協会 中日本訓練士代表	令和5年4月1日～令和6年3月31日	業界関係者
西川 明香里 氏	平成動物病院 動物看護師	令和5年4月1日～令和6年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.nagoya-doubutsu.ac.jp>

公表時期: 毎年5月下旬

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育方針、特色(ホームページ) 校長名、所在地、連絡先(ホームページ) 学校の沿革、歴史(ホームページ)
(2) 各学科等の教育	設置学科、収容定員(ホームページ) 授業方法(ホームページ) カリキュラム(ホームページ) 目標取得資格、目標合格検定(ホームページ) 資格取得、検定試験合格等の実績(ホームページ) 主な就職先(ホームページ)
(3) 教職員	教職員数(ホームページ)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等の取組状況(ホームページ)
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況(ホームページ) 課外活動(ホームページ)
(6) 学生の生活支援	学生相談室、就職相談室の設置(ホームページ)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(ホームページ) 活用できる経済的支援措置の内容等(ホームページ)
(8) 学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表(ホームページ)
(9) 学校評価	自己点検評価報告書(ホームページ) 学校関係者評価報告書(ホームページ)
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法 : ホームページ

URL:<https://www.nagoya-doubutsu.ac.jp>

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 (文化・教養分野) 動物管理学科) 令和5年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			ビジネススマナー	社会人として必要なビジネススマナーについて学ぶ。学生としての意識・行動を顧み、社会人としての自覚や責任感を持つ。基本的なビジネススマナーを理解し組織の一員として働く留意点を学び、仕事をを行う上で必要な職場における気配り・心配り・気遣いのできる社会人を目指す。	1前	60	2	○			○	○				
○			就職ゼミナール	社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方について理解を深め、礼儀・ビジネススマナーの修得を目標とする。講座では、面接選考の仕組みを理解し、グループディスカッション、集団面接、個別面接、最終面接の面接ポイントを理解する。また自分の過去を体系的に整理し、自己分析を行いエントリーシートの作成や履歴書の作成に備える。本講座は、本学教員による演習と併せて、人事採用状況について精通している外部教員(各業界を代表する企業の人事担当者)の講話により構成される。	2前	60	2		○			○				
	○		総合講座Ⅰ	社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける。非言語分野を中心に繰り返し演習を行い「解法」を身に付ける。	1前	30	1	○				○		○	○	
	○		総合講座Ⅱ	社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける基礎講座の後、応用問題に取り組みより正確かつ迅速に演習ができるようにする。	1後	30	1	○				○		○	○	
	○		コンピュータ演習Ⅰ	パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Wordを中心として、Excel、PowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。	1後	60	2		○			○			○	
	○		コンピュータ演習Ⅱ	パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Excelを中心としてPowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。	2後	60	2		○			○			○	
○			卒業研究	就職先の業界研究など各自の定めたテーマに沿って卒業研究の成果として提出する論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、テーマに精通する者として、そして一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。	2後	150	5		○			○		○	○	
	○		グルーミング実習Ⅰ	グルーミングの目的を理解した上で正しい道具の扱い方を実践することで、用具・用品の適切な使用方法や手入れの方法、生体の健康チェックやグルーミングの基礎となるペーシックを中心に行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング基礎技術を修得することを目標とする。	1前	90	3			○		○			○	○
	○		グルーミング実習Ⅱ	グルーミングの基礎知識を実習に生かし、基本的な技術を身に付け迅速かつ丁寧に作業を行い、ペーシックを完了できるような実習を行う。また、犬体モデルを使用し、ケネルカットについてカット方法を身に付ける。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	1後	90	3			○		○			○	○
	○		犬の行動心理学Ⅰ	犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身につける。	1前	30	1		○			○			○	○
	○		犬の行動心理学Ⅱ	犬の行動特性を学ぶうえで、様々な犬種を扱いながら犬の行動や状態、性格分析を行う。また、各犬に応じた接し方を学ぶことで、人間と犬との関係性(コミュニケーション)の築き方を学ぶ。	1後	30	1		○			○			○	○



○	基礎獣医学Ⅰ	動物の体の組織や器官の仕組みを理解できるようにする。また、動物を取り巻く環境要因や疾病についても学ぶ。身近な動物である犬のからだ、骨格、病気について主に学び、日常の健康管理、食餌管理について学習する。	1 前	30	1	○	○	○	○	○	○
○	基礎獣医学Ⅱ	動物の体の組織や器官の仕組みを理解し、動物の状態確認や応急処置に対応できるようにする。また、動物を取り囲む環境要因や主な感染症と予防についても学習する。	1 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング実習Ⅲ	ブードルのカットとして、ケネル(ラム)カットを主に、一人でベーシックからクリッピング、カットまで行えるように実習を行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、トリミング技術の目安となるケネルカットを実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、より高いグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 前	90	3	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング実習Ⅳ	ケネルカット以外のカット方法を学び、実践することで、一定の犬種にこだわらずにグルーミング対応できる人材を目指す。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、人気犬種のグルーミング技法を実体験に沿って行う内容とし、高度なグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング論Ⅰ	グルーミング実習を行う際に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義、演習を行う。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい道具の扱いや生体の扱いを実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	1 前	30	1	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング論Ⅱ	グルーミング時に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の知識を用いて、カットの基本技術を学ぶためトイブードルのケネル(ラム)クリップ技法を学ぶ。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	1 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング論Ⅲ	グルーミングの目的と必要性を認識し、小型犬や大型犬を問わず多種多様な犬種の特徴を学ぶとともに、トリミング技術の知見を広げる。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	2 前	30	1	○	○	○	○	○	○
○	犬の行動心理学Ⅲ	応用編として動物行動学や学習理論に基づき各犬の行動・性格分析を行い、適切な接し方を実践したうえで、効果的にトレーニング(犬の行動を引き出す技術)が行われているかを学ぶ。	2 前	30	1	○	○	○	○	○	○
○	犬の行動心理学Ⅳ	多くの犬種の特性と様々な問題行動を理解し、その対処法からトレーニング方法を考え実施する。また、仔犬を含めた犬に対するケアと管理の方法を理解し、第三者にもアドバイスできる人材となれるよう技術を高める。また、ドッグスポーツとしてアジリティ競技を学ぶ。	2 後	30	1	○	○	○	○	○	○
○	インターンシップ	生涯職業計画の指針として、職業選択、適性の見極めを目的として職場体験を行う。インターンシップ前は、原則として学生自身が希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択できる。	1 後	45	1	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング研究Ⅰ	グルーミング道具を正しく使用し、ベーシックの基礎技術を高め、さらに迅速かつ丁寧なグルーミングができる技術の修得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる知識・技術を効率良く発揮する方法を実体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を目標とする。	1 前	90	3	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング研究Ⅱ	ブードルを主とした生体実習により、様々なカットの基礎技術を学び、迅速かつ丁寧なトリミングができる技術の修得を目指すとともにグルーミング技術の資格取得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる飼い主様との接し方やカットのオーダー、カルテ作成などを実体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を育成し、社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	1 後	90	3	○	○	○	○	○	○

○	グルーミング研究Ⅲ	小型犬や大型犬、様々な犬種の特性に応じたグルーミングの知識と技術を学ぶとともに、時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、スピードトリミング技術をより実践的に行うことで、高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 前	90	3			○	○					○	○
○	グルーミング研究Ⅳ	トリマーとして必要となる接客技術やお客様(お預かり犬)の情報管理、カットに必要なオーダーや時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法や、即戦力となりうる応用力を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで実践されているトリミング技術を行うことで、より高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 後	30	1			○	○					○	○
○	基礎獣医学Ⅲ	感染症の中でも人に感染するズーノーシスについて学習する。感染経路や症状を理解し、予防できるよう学ぶ。また、主となる家庭動物である犬や猫の繁殖生理や解剖生理、遺伝について学ぶ。	2 前	30	1	○			○					○	○
○	基礎獣医学Ⅳ	幼齢動物・高齢動物の飼育管理を理解するとともに、哺乳類に加え、鳥類・爬虫類の体の仕組みと特性を学び幅広い動物に対応できるようにする。さらに、産業動物、実験動物などについても理解し、課題や関連法規について学習する。	2 後	30	1	○			○					○	○
○	動物学	用途別に犬種を分類しその特徴や性格について研究する。併せて、猫の品種についても学習し、その性格、飼い方のポイントについて学習する。	1 前	30	1	○			○					○	
○	ペットシッティング実習Ⅰ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。そして、飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身に付ける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。ペットシッティングを通じて動物愛護の精神を涵養し、動物の取扱い、動物の福祉について学ぶ。	1 前	45	1			○	○					○	○
○	ペットシッティング実習Ⅱ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身に付ける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身に付ける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	1 後	45	1			○	○					○	○
○	ペットシッティング実習Ⅲ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシッティングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身に付ける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理に努め、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身に付ける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	2 前	45	1			○	○					○	○
○	ペットシッティング実習Ⅳ	動物の飼養施設の衛生管理、温度及び湿度の管理、給餌と給水を適切に行う知識と技術を学校犬へのペットシッティングを通じて身に付ける。さらに円滑にペットシッティングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。また、管理、指導役としてペットシッティング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるよう、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身に付ける。	2 後	45	1			○	○					○	○
○	動物関係法令	人と動物とのかわりに関する基本法「動物の愛護及び管理に関する法律」等について正しい知識を学ぶ。日本においては動物に関する法律として約20種類ほどのものがあり身近な伴侶(愛玩)動物(飼養動物)として接するもの、自然の中に生息している野生動物として接するものなどに大別できる。法律に則り、適切に動物を取り扱うことのできる人材を育成する。	1 後	60	2			○	○					○	
○	家庭動物管理学	ペット販売者は、命あるペットを販売する場合に、飼い主に対し社会的責任を果たすために必要なことを十分説明する責任がある。ペット業界に携わる者として必要な動物愛護管理法に関する知識を身に付ける必要がある。また、トラブルを予防するための基礎知識やアフターフォローの方法も学習し、お客様に対しての接客マナーを合わせて学びます。更に犬と猫を中心とした病気、繁殖、フード、しつけなども学習する。	1 後	60	2	○			○					○	



○	ホリスティックケアⅢ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。ペットのストレス、成人病、高齢化や肥満といった人間社会と同じような社会現象も現れてきていることを理解し、さらなる知識、技術の向上を目標とする。ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、アロマセラピーの上級資格取得、東洋医学に由来する経絡とツボの理論を柱としたペットマッサージの習得、グループ討論を行うことによりコミュニケーションスキルを高め合い、個々の思考能力を高める。	2 前	30	1	○	○	○	○	○
○	ホリスティックケアⅣ	飼い主の心に寄り添い、傾聴し、アドバイスを行う手法の修得と動物介在活動における社会貢献活動について取り組める人材を目標とする。ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ホリスティックケアの集大成として、アロマセラピー、マッサージ技法、犬猫の身体・ツボおよびリンパマッサージ、犬猫の栄養学と手作り食、犬猫のストレス学、犬猫に負担の少ないグルーミングなどを総合的に学ぶ。	2 後	15	1	○	○	○	○	○
合計		47科目	2,415 単位時数			( 79 単位 )				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間以上になること。 履修方法：コース選択により履修科目が決定する。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	20週

1. 講義・演習は15時数～30時数で1単位とし、実習は30時数～45時数で1単位とする。
2. 選択必修については、この中から3科目以上履修すること。
3. 次に定める授業科目の履修等は、本校各課程の修了に必要な総授業時数の2分の1を超えない範囲で、当該課程における授業科目の履修とみなす。

科目区分	履修する専門学校	必修・選択の別	履修科目	本校において履したとみなす授業時数(単位数)
一般科目	東京法律公務員専門学校名古屋校 文化教養専門課程 行政学科(1年制)	必修	社会科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	社会科学演習	60時間(3単位)
		必修	人文科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	人文科学演習	40時間(2単位)
		必修	自然科学概論	40時間(2単位)
		選択必修	自然科学演習	40時間(2単位)
		選択必修	時事研究	40時間(2単位)
専門科目	東京法律公務員専門学校名古屋校 文化教養専門課程 行政学科(1年制)	選択必修	判断推理	40時間(2単位)
		選択必修	判断推理演習	00時間(5単位)
		選択必修	数的推理	60時間(3単位)
		選択必修	数的推理演習	00時間(5単位)
		選択必修	資料分析	40時間(2単位)
		選択必修	文章研究	40時間(2単位)
		選択必修	適性演習	40時間(2単位)
		選択必修	トレーニング演習	40時間(2単位)
		必修	就職セミナーⅠ	20時間(1単位)